

# これが 公民館報 第294号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

四賀の世帯数・人口	
世帯数	1,957世帯
人口	4,955人
男	2,407人
女	2,548人
(平成 26年 9月 1日現在)	

## 新しい曲 〈大切なものと歌よありがとう〉 第29回 四賀コンサート開催

### 第29回 四賀コンサート



三十回を目前にした四賀コンサートが、九月六日に四賀小学校体育館で開催されました。すっかり秋めいたさわやかな風が吹きはじめた夕方、大勢の観客が入場し、会場は満席となりました。実行委員長の百瀬公民館長挨拶に続き演奏が始まり、松本交響楽団によるモーツァルトの「ディベルティメント」が会場に響きます。次に六人の奏者が登場、ベートーヴェンの「管楽六重奏」が演奏されました。続いて指揮の丸山先生が再度登壇され、ウェーバーの「歌劇『オベロン』序曲」が演奏されました。

ステージ上に四賀鼓龍会虚空蔵太鼓の子どもメンバーが上がり「おんべ」が演奏され、続いて大人たちの「金剛力」



が力強く演奏されました。休憩後、ずっとポスターを描いていた本田先生へ感謝の花束贈呈がありました。そして、長野県のコンクールで金賞を受賞し、東海地区コンクールで見事銀賞を受賞した会田中学校シニア吹奏楽クラブが受賞曲の「喜歌劇『メリー・ウイドウ』セレクション」を披露し、次に「宇宙戦艦ヤマト」が演奏されました。

会場に松本交響楽団が再登場し、四賀コンサート合唱団、会田中学校生徒、四賀小学校六年生がその背後に整列しました。合唱は「歌よありがとう」から始まり「大切なもの」へ…。そして指揮が会田中学校の小林拓也先生に代わり「大地讃頌」が歌われました。最後の歌は丸山先生の指揮で「もみじ」が合唱されました。

来年は三十回目の開催となります。皆の力でこれからも四賀コンサートが行われ続けていけることを願っています。



### 第24回 四賀夏まつり



七月十九日、ふるさと公園四賀まつりが開催された。四賀小学校金管クラブとミス松本のパ

レードで始まり、ダンス、バンド演奏などのステージが行われました。「四賀ソング」の踊り流し中に雨が降り始め、「松本ほんぼん」の踊りは中止になってしまいました。その後、アコーディオンの弾き語りの玉井夕海さんとタップダンスの中山貴踏さんのステージや、アイドルグループ「モナ」が夏まつりを盛り上げました。続いて消防団ラッパ隊の演奏などが続き、虚空蔵太鼓がステージの最後を飾り、大勢の皆さんの協賛による大花火大会に歓声が上がりました。





千葉市立大木戸小学校と越智小学校の六年生三十七名が農山村留学のため八月二十二日～二十五日まで三泊四日で四賀地区を訪れました。

この農山村留学は、親元を離れ豊かな自然の中で様々な体験を通じ感動を味わったり、住民との交流により心身ともに成長しようといわれるもので、四賀地区では平成十五年から受入れをしています。

初日から一泊二日で九軒のホームステイ先に分かれて野菜を採ったり食事の用意をしたりして、ホストファミリーと交流を深めました。

三日目には虚空蔵山に登り、保福寺川での化石採集、化石館でのレプリカづくりを行い、思い出に残る農山村留学となりました。

**地域づくりと公民館活動を研修**  
**名古屋大学大学院の松本研修**  
 八月二十八日に名古屋大学大学院教育発達科学研究科の学部学生、大学院生、教員と職員他三十三人の皆さんが四賀公民館を訪れました。これは、「社会教育調査実習」松本研修ということで、前日の二十七日に松本市中央公民館で、松本市公民館の概要と地域づくり推進の概要を研修し、市公民館担当者と手づくり交流会を行ってからの訪問となります。四賀地区訪問は初めてのことです。午前中に四賀地区の概況と活動実践、公民館の役割等を研修し、午後から住民インタビューです。

四賀地区からは四賀公民館の百瀬館長をはじめ三人の担当者、中央公民館担当者四人と四賀地区住民十五人の参加で、四つのグループに分かれ、学生さんたちと住民が話し合いました。地域活動の実践と活動内容、問題点などを学生さんたちが聞き取り、報告する住民の皆さんも改めて自分たちの活動について気づかされることの多いディスカッションとなりました。

翌日は島立公民館を訪問し、活動実践を研修することでした。大学からの報告書が待たれます。

### 満蒙開拓平和記念館訪問



九月十一日、四賀地区人権啓発推進協議会の視察研修会で下伊那郡阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」を訪れました。近ごろ新聞で取り上げられ、新装開館から二年五月ほどで四万人以上が訪れていきます。参加した二十名はまず満蒙開拓についてのビデオを視聴。当時の時代背景、開拓団や青少年義友隊の募集編成、現地の状況やソ連参戦と敗戦の混乱の中で避難・逃避行による多くの犠牲が出た状況などがまとめられており、参加者の多くがその悲惨な歴史に思いを新たにしました。



語り部の湯澤政一さん  
 その後、青少年義友隊として昭和二十年三月に十五才で満州に渡った湯澤政一さんの話を聞きました。昭和二十一年十月に無事帰国できるまでの体験で、開拓団の護衛や収容所での友人の死などを語っていただき「私たちが青少年義友隊が護衛した開拓団二千五百名は一人の犠牲も出さずに避難できましたが、こんな僥倖に恵まれたのは私たちが他の開拓団の多くは悲惨な逃避行を強いられ多くの犠牲が出ました」と最後にお話しされました。湯澤さんの義友隊も収容所での病气や栄養失調により二百七十五人中七十六名が死亡したとのこと。

現在記念館では「語り部」として十名の方が都合をつけて満州での経験を語ってくださいています。今後語り継いでいってほしいと思います。

### 湧き水

▼数年前から「地域活性化」という言葉が流行っている。平成の大合併で村が市に合併され、村が減少した。それ以前から少子化が叫ばれ郊外の町は人口減少にありでいる。ここ四賀地区もその一つだ。

▼いろいろな地域で、いろいろな方法で、地域活性化が行われている。ふなっしーや、くまもんなどで有名なゆるキャラブームも、地域活性化からきている。ゆるキャラを作ることに対する考えはまた別にして、ここ四賀の魅力は、豊かな自然に囲まれた里山ではないだろうか？里山はどこにでもあるのだが、他とは違う四賀の魅力とは何かを考えてみると、数多くのものがあることに気づく。ただ、昔から住んでいる人は、里山に感激することはなかった。よそから来た人々には…

▼しかし今は違ってきている。地元にいる人たちが今ある四賀の良さを外に伝え、四賀に訪れてもらえたらと、数組の組織が地域活性化を行っている。今年十月、その活動が形となる。秋の二日間、四賀地区で何かが起こり、何かが変わる。それを期待したい。

お気軽にご相談ください。

**四賀地区担当**  
 丸山 悠 保健師

**四賀支所にいます！**

- 10月16日(木) 9:00～11:00
- 30日(木) 1:00～3:00
- 11月10日(月) 1:00～3:00
- 27日(木) 9:00～11:00

**第31回** 市長杯争奪球技大会  
**第三部** バレーボール予選大会

バレーボール 優勝  
 軟式野球 第3位  
 バレーボールは十一月二日に開催される本選に出場します。